

交付運用報告書

受益者の皆さまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。
当ファンドは主として外国投資信託への投資を通じて各産業セクターを代表する中国A株に投資を行い、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。当期におきましても、当該運用方針に沿った運用を行いました。ここに、その運用状況をご報告申し上げます。

引き続き、一層のご愛顧を賜りますよう、お願い申し上げます。

UBS中国A株ファンド
(年1回決算型)

愛称：桃源郷

追加型投信／海外／株式

第14期（決算日2023年9月25日）
作成対象期間（2022年9月27日～2023年9月25日）

第14期末（2023年9月25日）	
基準価額	55,170円
純資産総額	11,767百万円
騰落率*	5.0%
分配金合計	0円

※騰落率は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算しています。

UBSアセット・マネジメント株式会社

東京都千代田区大手町一丁目2番1号 Otemachi Oneタワー
<お問い合わせ先> 投信営業部 03-5293-3700
(受付時間：営業日の午前9時～午後5時、土、日、祝日除く)

<http://www.ubs.com/japanfunds>

当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を電磁的方法により提供することが定められております。運用報告書（全体版）は以下の方法でご覧いただけます。

<閲覧方法>

上記の委託会社のホームページアドレス⇒「ファンド検索」にファンド名（日経新聞掲載名でも可）を入力⇒表示されたリストの「ファンド名」欄にある当該ファンドの名称をクリック⇒「運用報告書（全体版）」のタブをクリック

なお、運用報告書（全体版）は受益者のご請求により交付されます。書面をご希望される場合には、販売会社までお問い合わせください。

©UBS2023。キーシボル及びUBSの各標章は、UBSの登録又は未登録商標です。UBSは全ての権利を留保します。

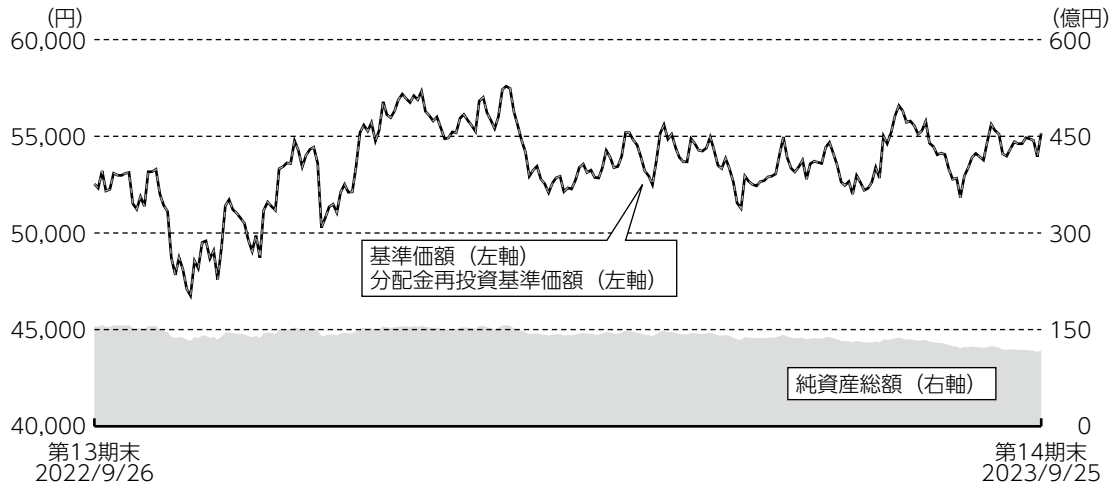
UD FONT

見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

運用経過

基準価額等の推移について

(2022年9月26日～2023年9月25日)



第14期首：52,530円

第14期末：55,170円（既払分配金 0円）

騰落率： 5.0%（分配金再投資ベース）

- (注1) 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 分配金再投資基準価額は、期首の値を基準価額と同一となるように指数化しています。

当期の基準価額は、期首比で2,640円値上がりしました。なお基準価額の騰落率は+5.0%となりました。

基準価額の主な変動要因

当期の基準価額は、中国株式市場が下落した環境下で、実質組入株式における銘柄選択が奏功したことや、為替変動（円安・人民元高）などのプラス要因が、信託報酬などのマイナス要因を上回ったことにより、値上がりしました。

1万口当たりの費用明細

項目	当期 2022/9/27～2023/9/25		項目の概要
	金額	比率	
信託報酬	660円	1.240%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 ※期中の平均基準価額（月末値の平均）は53,224円です。
（投信会社）	（175）	（0.329）	委託した資金の運用の対価
（販売会社）	（467）	（0.878）	運用報告書等各種書類の交付、口座内でのファンドに係る管理、購入後の情報提供等の対価
（受託会社）	（ 18）	（0.033）	運用財産の管理、運用指図実行等の対価
その他費用	12	0.023	その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（監査費用）	（ 4）	（0.008）	監査法人等に支払うファンド監査に係る費用
（印刷費用等）	（ 8）	（0.015）	法定開示書類作成の際に業者に支払う作成・印刷・交付等に係る費用（EDINET含む）等
（その他）	（ 0）	（0.000）	受益権の管理事務に関連する費用等
合計	672	1.263	

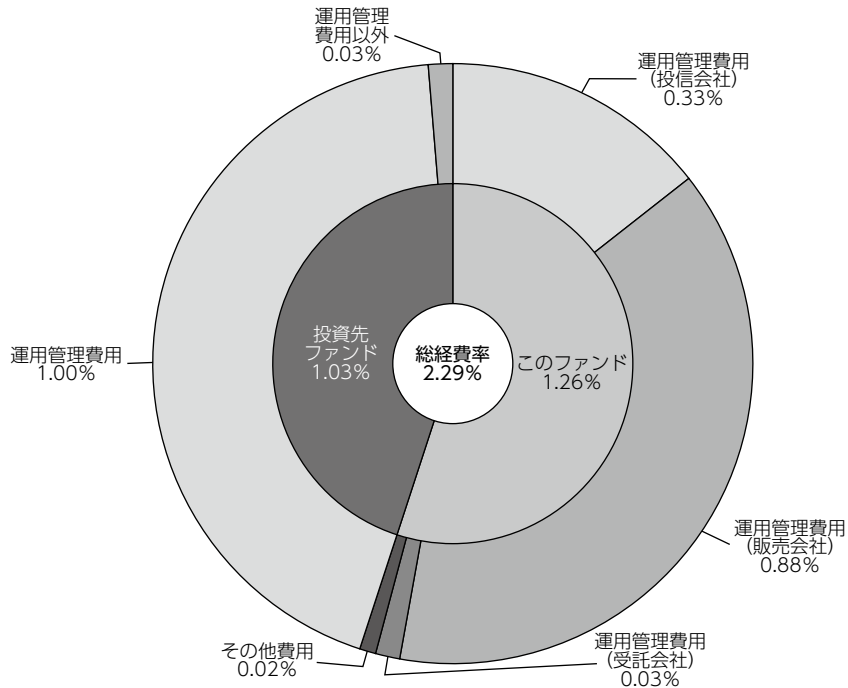
(注1) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は、追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(注4) 各項目の費用は、このファンドが組入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。

（参考情報） 総経費率



総経費率 (①+②+③)	2.29%
①このファンドの費用の比率	1.26%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	1.00%
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.03%

(注1) ①の費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) ②・③の費用は、当該投資先ファンドの期中の平均純資産総額で除して算出した概算値です。

(注3) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注4) 各比率は、年率換算した値です。

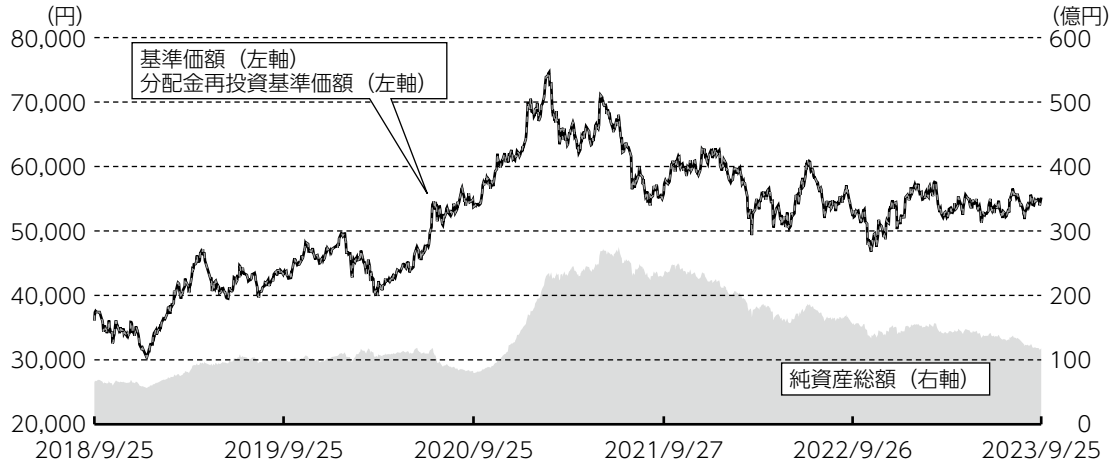
(注5) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注6) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は2.29%です。

最近5年間の基準価額等の推移について

(2018年9月25日～2023年9月25日)



(注1) 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。

(注3) 分配金再投資基準価額は、2018年9月25日の値を基準価額と同一となるように指数化しています。

	2018年9月25日 期初	2019年9月25日 決算日	2020年9月25日 決算日	2021年9月27日 決算日	2022年9月26日 決算日	2023年9月25日 決算日
基準価額 (円)	36,082	43,616	53,715	55,772	52,530	55,170
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	0	0	0	0	0
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	20.9	23.2	3.8	△ 5.8	5.0
純資産総額 (百万円)	6,482	9,978	7,952	23,168	15,550	11,767

(注) 「分配金再投資基準価額騰落率」および「期間分配金合計 (税込み)」は、表中の直前の決算日または期初からの騰落率および分配金合計 (税込み) です。

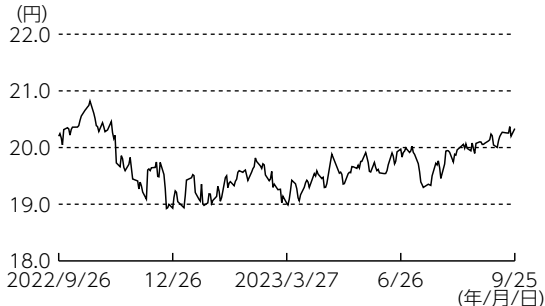
※当ファンドはファンド・オブ・ファンズであり、運用の目標となるベンチマークや投資対象資産の市場動向を説明する代表的な指数 (参考指数) はありません。

投資環境について

当期の中国株式市場は下落しました。

期の序盤、中国政府・当局の景気浮揚策への期待などが株価の下支えとなったものの、2022年10月に発足した中国共産党の新最高指導部の政策運営をめぐる不透明感などを嫌気して、株価は下落しました。その後、当局が低迷している不動産セクターの支援策を発表したことなどを材料に株価は反発に転じ、12月以降も「ゼロコロナ」政策の解除による経済活動の再開と景気回復期待などを支えに、上げ幅を拡大しました。しかし2023年2月に入り、中国の気球を米国が撃墜したことを受けて両国間の緊張が高まったほか、米利上げ長期化懸念などから市場で投資家心理が悪化し、株価は再び軟調な展開となりました。期の後半、2023年1－3月期の中国GDP成長率の上振れや、中国人民銀行（中央銀行）による緩和的な金融政策などが支援材料となり、株価は一時持ち直す局面もありました。しかし、国内経済の回復の遅れや半導体をめぐる米中対立の深刻化、大手不動産開発会社の経営危機による信用不安の広がりなどが市場の重石となり、中国株式市場は下落基調で推移しました。結果、前期末を下回る水準で期を終えました。

人民元／円レートの推移



ポートフォリオについて

当ファンドのポートフォリオについて

UBS（CAY）ダイナミック・チャイナAシェア・ファンド（J Class）およびUBS短期円金利プラス・ファンド（適格機関投資家向け）を主要投資対象とし、期を通じてUBS（CAY）ダイナミック・チャイナAシェア・ファンド（J Class）への投資割合は90%以上を維持しました。

UBS（CAY）ダイナミック・チャイナAシェア・ファンド（J Class）のポートフォリオについて

上海証券取引所および深セン証券取引所の中国A株のうち、各産業セクターを代表する銘柄を中心に投資しました。

●期中の主な動き

(1) 投資比率を引き上げた主な業種・銘柄

「ゼロコロナ」政策の撤廃を好感し、2022年末から2023年初めにかけて株価が急騰したものの、その後の中国経済の回復が力強さを欠くことに加えて、不動産業界での信用問題の再燃などから、本土株式市場が下落基調をたどる中、一般消費財・サービスでは大手家電メーカーの美的集団（ミデア・グループ）、ヘルスケアでは、漢方薬メーカーの雲南白薬集団（ユンナン・バイヤオ・グループ）や、中国の伝統的生薬の阿膠（アキョウ：ゼラチンの一種）に強みを持つ東阿阿膠（ドン・ウーウー・ジャオ）など、業界内で優位な立ち位置にあり、業績見通しと比べて割安度が高いと考える銘柄のウェイトを引き上げることにより、それぞれセクターウェイトを引き上げました。

(2) 投資比率を引き下げた主な業種・銘柄

一方、昨年末以降の株価上昇局面をとらえて、情報技術では、電子機器受託製造サービス（EMS）大手で、米アップルのワイヤレスイヤホンの「AirPods」や、スマートフォンの「iPhone」などの生産も受託している立訊精密工業（ラックスシェア・プレジジョン・インダストリー）を全売却したほか、素材では、自動車用部品や衣類、断熱材など幅広い用途を持つMDI（ポリウレタンの一種）で世界シェア首位の万華化学集団（ワンファ・ケミカル・グループ）の売却を進め、それぞれセクターウェイトを引き下げました。

※業種はGICS分類に準拠しています。

UBS短期円金利プラス・ファンド（適格機関投資家向け）のポートフォリオについて

マザーファンドへの投資を通じて、主としてわが国のコマーシャル・ペーパーを含む短期金融商品および内外の円建ての公社債を実質的な投資対象とし、利息等収入の確保を目指して運用を行いました。当期におきましては、利回りの優位性を勘案しつつ、無利子金融商品やコール・ローン等での運用を行いました。

ベンチマークとの差異について

当ファンドは、ファンド・オブ・ファンズであり、運用の目標となるベンチマークや投資対象資産の市場動向を説明する代表的な指数（参考指数）はありません。

分配金について

当期は、基準価額の水準や市況動向等を勘案し、分配を行わないこととしました。分配にあてなかった利益につきましては、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

分配原資の内訳 (1万口当たり・税引前)

項目	第14期
	2022年9月27日~2023年9月25日
当期分配金	-円
(対基準価額比率)	(- %)
当期の収益	-円
当期の収益以外	-円
翌期繰越分配対象額	45,169円

(注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は、「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

(注2) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注3) 「当期の収益」、「当期の収益以外」は小数点以下切捨てで算出しているため、合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。

今後の運用方針

投資環境の見通し

中国政府は、同国経済が直面している困難な問題を認識しているため、景気のコト入れに舵を切る動きを明確に示しており、政策における緩和の加速化が見られます。これまでに講じられた金融緩和は比較的小規模でしたが、最近の政府・当局による金融・財政面での積極的かつ、様々な取り組みは、不動産市場と経済を安定させるという上層部の決意の表れであり、2023年序盤に政府が設定した2023年の経済成長率目標である「5%前後」の達成に向けた一助になると思われます。これらの取り組みの効果が表れるまでにはある程度の時間を要するものの、今後投資家心理の改善のスピードは早まることが予想されます。

同国では、消費者および企業の信頼感の低下が経済成長の足かせになっていると捉えています。多くの消費者や企業は現金を手元に蓄え、余剰資金を銀行口座に眠らせており、一部の住宅所有者は資金を消費や投資に充てるよりも住宅ローンを繰り上げ返済することを選択しています。長期的な視点では、今後市場の焦点が経済成長の動向に回帰して、政府・当局が経済改革と市場の開放を粘り強く実行し、信頼感を回復することが重要であると考えます。一方、中国の規制には周期的な傾向があることに留意が必要です。同国の規制当局は、経済、政治、社会の安定を維持するために、今後も政策の微調整を継続的に行う可能性があります。

中国株式市場はアクティブ運用の観点で、引き続き大きな投資機会を有していると考えています。当ファンドでは、競争優位性があり、質が高いと判断する企業を中心に保有しています。このため、長期的にみると市場参加者の関心が企業のファンダメンタルズとキャッシュフロー創出力に回帰すれば、こうした企業への投資が当ファンドに良好なリターンをもたらすものと考えております。

当ファンドの今後の運用方針

UBS (CAY) ダイナミック・チャイナAシェア・ファンド (J Class) の投資比率を高位に維持する方針です。

UBS (CAY) ダイナミック・チャイナAシェア・ファンド (J Class) の今後の運用方針

当ファンドは、銘柄選択を重視しており、長期的な勝ち組となり得る質の高い企業を発掘し、銘柄を厳選して投資を行います。今後もファンダメンタルズが良好な優良銘柄に割安な水準で投資できる機会をうかがいながら、運用を続けてまいります。

UBS短期円金利プラス・ファンド（適格機関投資家向け）の今後の運用方針

マザーファンドへの投資を通じて、短期金融市場の状況を注視しつつ、コール・ローン等で運用する予定です。

お知らせ

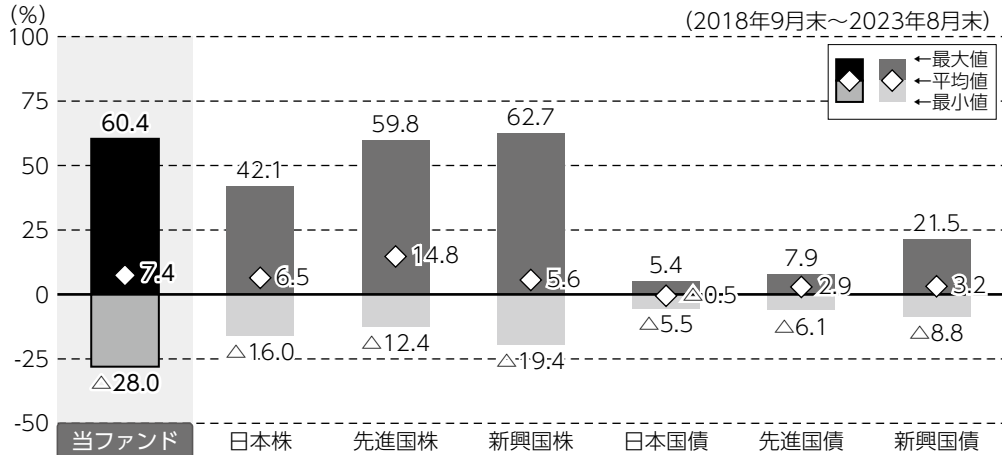
該当事項はありません。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／海外／株式	
信託期間	信託設定日（2009年9月18日）から2029年9月25日まで	
運用方針	主として外国投資信託への投資を通じて、各産業セクターを代表する中国A株に実質的に投資を行い、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。	
主要投資対象	UBS（CAY）ダイナミック・チャイナAシェア・ファンド（J Class）（以下「指定外国投資信託」といいます。）の投資証券およびUBS短期円金利プラス・ファンド（適格機関投資家向け）の受益権を主要投資対象とします。なお、コマーシャル・ペーパー、コール等の短期有価証券ならびに短期金融商品等に直接投資をする場合があります。	
	UBS（CAY）ダイナミック・チャイナAシェア・ファンド（J Class）	上海証券取引所および深セン証券取引所のA株を主要投資対象とします。
	UBS短期円金利プラス・ファンド（適格機関投資家向け）	UBS短期円金利プラス・マザーファンド受益証券への投資を通じて、わが国のコマーシャル・ペーパーを含む短期金融商品および内外の円建ての公社債を実質的な主要投資対象とします。
運用方法	指定外国投資信託の投資証券の組入れについては高位を維持することを基本とします。ただし、UBS（CAY）ダイナミック・チャイナAシェア・ファンド（J Class）の投資証券とUBS短期円金利プラス・ファンド（適格機関投資家向け）の受益権との投資比率については、収益性と流動性を鑑み特に制限を設けませんが、通常の運用状況においては指定外国投資信託の投資証券への投資割合を原則として90%以上とします。 投資対象市場のバリュエーションが極端に割高となった場合、カントリー・リスクが発生した場合などには、一時的にファンド資産の大部分を短期金融商品などの流動性資産に投資する場合があります。	
	UBS（CAY）ダイナミック・チャイナAシェア・ファンド（J Class）	中国A株投資にあたっては、現物株式に加え、個別株式等の価格変動に運用成果が連動する有価証券等にも投資する場合があります。
	UBS短期円金利プラス・ファンド（適格機関投資家向け）	直接投資を行う場合の公社債については、原則として、購入時においてS&P、ムーディーズ、格付投資情報センター、日本格付研究所のうち1社以上の格付機関より、Aa3/AA-以上の長期格付けが付与されたものに投資を行います。また、購入時において残存期間が2年以内の公社債とします。 UBS短期円金利プラス・マザーファンドの組入れについては、50%以上を維持することを基本とします。 <UBS短期円金利プラス・マザーファンド> 代表的銀行の3ヵ月大口預金金利を上回る信託財産の安定的な成長を目指して運用を行います。
分配方針	毎決算時（原則毎年9月25日、休業日の場合には翌営業日）に、経費控除後の繰越分を含めた配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の中から、委託者が市況動向等を勘案して収益分配金額を決定します。ただし、委託会社の判断で分配を行わないことがあります。収益の分配にあてなかった利益の運用については特に制限を定めず、運用の基本方針に基づき元本部分と同一の運用を行います。	

※資金動向、信託財産の規模および市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

代表的な資産クラスとの騰落率の比較



- * 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。
- * 2018年9月から2023年8月の5年間の各月末における1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。
- * 騰落率は直近の月末から最大60ヵ月さかのぼった算出結果であり、当ファンドの決算日に対応したものではありません。
- * 騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算しており、実際の基準価額に基づいて計算した騰落率と異なる場合があります。

各資産クラスの指数

日本株	東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)	東証株価指数 (TOPIX) に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社に帰属します。
先進国株	MSCIコクサイ・インデックス (配当込み、円換算ベース)	MSCIインデックスに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。
新興国株	MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円換算ベース)	
日本国債	NOMURA-BPI国債	NOMURA-BPIに関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属します。
先進国債	FTSE世界国債インデックス (除く日本、円換算ベース)	FTSE世界国債インデックスに関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。
新興国債	JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースファイド (円換算ベース)	JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースファイドに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P.Morgan Securities LLCに帰属します。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

各資産クラスの騰落率について

騰落率は、データソースが提供する各指数をもとに株式会社野村総合研究所が計算しております。株式会社野村総合研究所および各指数のデータ提供者は、その内容について、信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性を含む一切の保証を行いません。また、当該騰落率に関連して資産運用または投資判断をした結果生じた損害等、当該騰落率の利用に起因する損害及び一切の問題について、何らの責任も負いません。

ファンドデータ

当ファンドの組入資産の内容

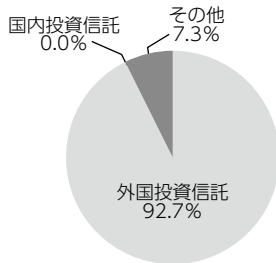
(2023年9月25日現在)

組入上位ファンド（銘柄数：2銘柄）

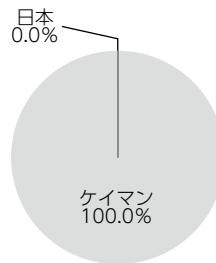
銘柄	比率 (%)
UBS (CAY) ダイナミック・チャイナAシェア・ファンド	92.7
UBS短期円金利プラス・ファンド（適格機関投資家向け）	0.0

(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。

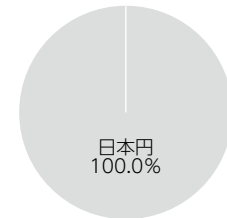
資産別配分



国・地域別配分



通貨別配分



(注1) 「資産別配分」、「通貨別配分」の比率は当ファンドの純資産総額に対する評価額の割合、「国・地域別配分」の比率は当ファンドのポートフォリオ部分に対する評価額の割合です。

(注2) 組入全銘柄に関する詳細な情報等については、「運用報告書（全体版）」をご覧ください。

純資産等

項目	第14期末 2023年9月25日
純資産総額	11,767,330,052円
受益権総口数	2,132,931,426口
1万口当たり基準価額	55,170円

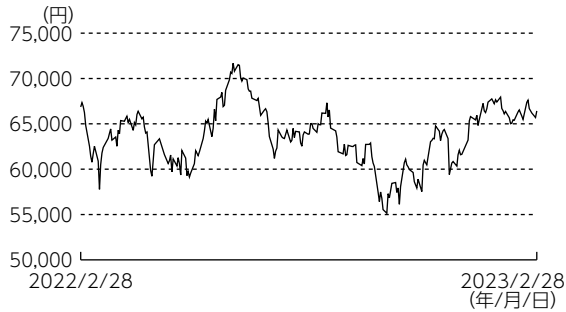
(注) 当期（第14期）中における追加設定元本額は175,277,868円、同解約元本額は1,002,749,339円です。

(2023年2月28日現在)

組入上位ファンドの概要

◆UBS (CAY) ダイナミック・チャイナAシェア・ファンド

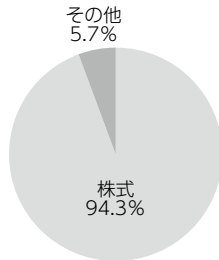
基準価額の推移 (2022年2月28日～2023年2月28日)



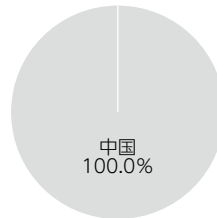
組入上位10銘柄 (銘柄数合計：19銘柄)

銘柄名	国/地域	比率(%)
KWEICHOW MOUTAI CO LTD A SHS ORD CNY1	中国	9.5
PING AN INSURANCE GROUP CO A SHS ORD NPV	中国	9.3
CHINA MERCHANTS BANK COMPANY LIMITED A SHARES	中国	9.1
PING AN BANK CO LTD A SHS ORD CNY1	中国	9.1
YUNNAN BAIYAO GROUP CO LTD-A ORD CNY1	中国	8.7
MIDEA GROUP CO LTD-A ORD NPV	中国	7.2
WANHUA CHEMICAL GROUP CO LTD A SHS ORD CNY1	中国	6.6
JIANGSU HENGRUI MEDICINE C - A ORD CNY1	中国	6.4
INNER MONGOLIA YILI INDUSTRIAL GROUP COMPANY LIMITED A SHARES	中国	5.1
LUZHOU LAOJIAO CO LTD A SHS ORD CNY1	中国	4.1

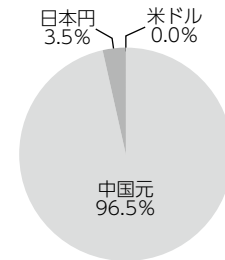
資産別配分



国・地域別配分



通貨別配分



(注1) 「基準価額の推移」は組入ファンドの直近の計算期間、「組入上位10銘柄」、「資産別配分」、「国・地域別配分」、「通貨別配分」は組入ファンドの直近の決算日現在のものです。

(注2) 「組入上位10銘柄」、「資産別配分」、「通貨別配分」の比率は組入ファンドの純資産総額に対する評価額の割合、「国・地域別配分」の比率は組入ファンドのポートフォリオ部分に対する評価額の割合です。

(注3) 「国・地域別配分」は、発行国・地域または投資国・地域を表示しております。

(注4) 上記のポートフォリオの内容は、監査済みアニュアルレポートの情報に基づき作成しています。

1万口当たりの費用明細

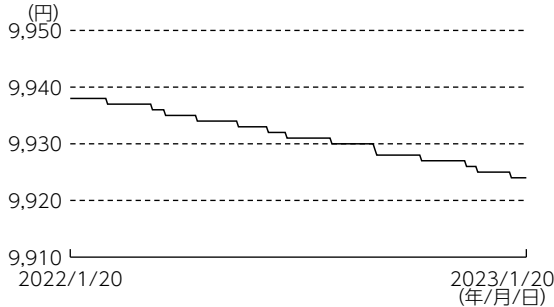
当該情報は開示されていないため、記載しておりません。

組入上位ファンドの概要

(2023年1月20日現在)

◆UBS短期円金利プラス・ファンド（適格機関投資家向け）

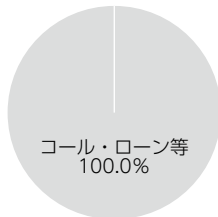
基準価額の推移（2022年1月20日～2023年1月20日）



組入上位銘柄

2023年1月20日現在、有価証券等の組入れはありません。

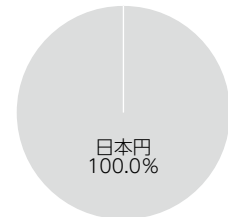
資産別配分



国・地域別配分

2023年1月20日現在、有価証券等の組入れはありません。

通貨別配分



(注1) 「基準価額の推移」は組入ファンドの直近の計算期間、「組入上位銘柄」、「資産別配分」、「国・地域別配分」、「通貨別配分」は組入ファンドの直近の決算日現在のものです。

(注2) 「組入上位銘柄」、「資産別配分」、「通貨別配分」の比率は組入ファンドの純資産総額に対する評価額の割合、「国・地域別配分」の比率は組入ファンドのポートフォリオ部分に対する評価額の割合です。

(注3) 上記のポートフォリオの内容は、組入れられたファンドの投資資産を表示しております。なお、直接投資しているのはマザーファンドですが、「組入上位銘柄」、「資産別配分」、「国・地域別配分」、「通貨別配分」はその先の投資資産を表示しております。

1万口当たりの費用明細

項目	当期 2022/1/21～2023/1/20	
	金額	比率
信託報酬	4円	0.044%
（投信会社）	(1)	(0.011)
（販売会社）	(0)	(0.001)
（受託会社）	(3)	(0.032)
その他費用	0	0.002
（その他）	(0)	(0.002)
合計	4	0.046

※期中の平均基準価額は9,931円です。

(注1) 「1万口当たりの費用明細」は、直近の計算期間のものです。費用項目の概要については、2ページ「1万口当たりの費用明細」の項目の概要をご参照ください。

(注2) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は、追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注3) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注4) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。